



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年11月8日

上場会社名 株式会社うかい 上場取引所 東
 コード番号 7621 URL <http://www.ukai.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大工原 正伸
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 峰尾 亨 (TEL) 042-666-3333
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	6,764	3.4	4	△97.9	△17	—	△26	—
30年3月期第2四半期	6,541	6.6	231	94.7	226	141.5	151	206.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
31年3月期第2四半期	△5.03		—					
30年3月期第2四半期	29.34		29.25					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	11,117	5,005	44.8
30年3月期	11,263	5,118	45.2

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 4,982百万円 30年3月期 5,095百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	18.00	18.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,115	6.6	376	6.1	354	3.0	199	△9.0	38.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

31年3月期2Q	5,235,940株	30年3月期	5,235,940株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

31年3月期2Q	1,218株	30年3月期	1,217株
----------	--------	--------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

31年3月期2Q	5,234,723株	30年3月期2Q	5,176,872株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで各種政策の効果等により緩やかな回復基調で推移しているものの、米中の通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるとあり、先行きは不透明な状況となっております。

当社が属する外食産業においては、顧客の嗜好が多様化し、業種・業態を超えた企業間との競合が激化するなか、消費者の食の安全安心に対する意識の高まりや人材不足による人件費の増加、原材料価格の高騰といった問題への対応もあって厳しい経営環境が続いております。また、当社の業績に影響を及ぼす個人消費に関しても、雇用・所得の環境が改善に向うなかで持ち直しが見られるものの、国内外の不安定な経済動向や物価上昇に対する警戒感もあり、消費者マインドが本格的に改善するまでには至らず、当社を取り巻く環境も依然として不透明な状況となっております。

このような経営環境のなか、当社は確実な成長と安定した収益基盤の確保を目指し、「人材の確保・育成」「ブランドの研鑽」「物販事業の成長促進」「国際的なブランド発信」の4つの課題を掲げ、更なる成長に向けた強固な経営体質の確立に取り組んでおります。

とりわけ「人材の確保・育成」は将来を見据えるうえで重要であると考え、当社理念を共有できる優秀な人材を確保・育成していくことに注力しており、当事業年度は定期採用として110名の新卒社員を迎え、営業体制の基盤強化を進めております。加えて、お客様にご不便をおかけしない範囲で一部店舗での定休日導入・拡大や営業時間の見直しを行い、従業員が夢と希望をもって働ける環境整備にも取り組んでおります。

また「国際的なブランド発信」では、平成30年4月に御盟建設股份有限公司との間で台湾台北市に建設される商業施設「微風南山」内の当社が運営するレストランの業務提携契約を締結し、当社海外2号店となる『THE UKAI TAIPEI (ザ ウカイ タイペイ)』を出店することとなり、現在準備を進めております。さらに平成30年8月には、従来のインバウンド効果を促進させるとともに新業態の創出を見据えてグローバルな事業展開の機軸となるよう、海外戦略室を新設いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、新店の『六本木うかい亭』と『六本木kappou ukai』（平成30年3月開業）及び『アトリエうかい エキュート品川』（平成29年7月開業）、『アトリエうかい トリエ京王調布』（平成29年9月開業）の寄与により売上高6,764百万円（前年同四半期比3.4%増）の増収となりました。一方、利益面においては増収による効果があったものの、戦略的な採用活動等による人件費の増加や店舗数増加に伴う経費の増加等により営業利益4百万円（前年同四半期比97.9%減）、経常損失17百万円（前年同四半期は経常利益226百万円）、四半期純損失26百万円（前年同四半期は四半期純利益151百万円）の減益となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

[事業本部]

和食事業・洋食事業では、お客様のニーズの多様化に合わせ、空間・料理・サービスをより良いものへと磨いていくとともに、それぞれの店舗が持つ独自の魅力を活かした企画・イベントの開催や季節に合わせた新メニューをご提案して継続的な来店機会の創出と新規顧客の獲得に努めております。当第2四半期においては、前述のとおり一部店舗での定休日導入・拡大や営業時間の変更の影響をはじめ、来客数が減少したことにより既存店は苦戦したものの、『六本木うかい亭』と『六本木 kappou ukai』の売上寄与により、前年同四半期に比べ増収となりました。

また、物販事業においても『アトリエうかい エキュート品川』と『アトリエうかい トリエ京王調布』の寄与により、前年同四半期に比べ増収となりました。

この結果、事業本部の売上高は6,173百万円（前年同四半期比4.1%増）となりました。

〔文化事業〕

文化事業では、『箱根ガラスの森』において、平成30年4月から11月まで2018年特別企画「一奇跡のガラスを生んだー華麗なるバロヴィエール一族展」を開催しております。この特別企画展を柱に、春から初夏にかけては「バラの庭園」や「あじさいフェスタ」、夏には「夏休み自由研究 ガラスの昆虫たち」や「夏休みカンツォーネコンサート」等の様々な企画展やイベントを開催して、多くのお客様にご来館いただけるように細やかなプロモーションや旅行会社をはじめとする企業への営業の強化を行っております。

しかしながら、記録的な猛暑や台風・豪雨の影響等もあって来館者数が伸長せず、文化事業の売上高は590百万円（前年同四半期比3.6%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末における資産、負債及び純資産の状態は以下のとおりであります。

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ146百万円減少し、11,117百万円（前事業年度比1.3%減）となりました。主な要因は、有形固定資産が56百万円増加したのに対し、現金及び預金が190百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ33百万円減少し、6,111百万円（前事業年度比0.5%減）となりました。主な要因は、借入金総額が236百万円、退職給付引当金が43百万円増加したのに対し、買掛金が64百万円、その他流動負債が257百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ113百万円減少し、5,005百万円（前事業年度比2.2%減）となりました。主な要因は、四半期純損失の計上による減少及び配当金の支払いによる減少により利益剰余金が120百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の通期の業績につきましては、平成30年5月17日に公表いたしました「平成30年3月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」の数字から変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	585,088	394,450
売掛金	536,386	514,469
商品及び製品	248,072	271,671
原材料及び貯蔵品	285,158	279,085
その他	166,800	148,395
貸倒引当金	△376	△361
流動資産合計	1,821,130	1,607,712
固定資産		
有形固定資産		
建物	9,889,993	9,915,038
減価償却累計額	△6,223,634	△6,372,441
建物(純額)	3,666,359	3,542,597
土地	2,365,444	2,365,444
建設仮勘定	5,830	214,177
美術骨董品	1,092,190	1,096,427
その他	3,827,721	3,864,874
減価償却累計額	△3,111,160	△3,180,238
その他(純額)	716,560	684,636
有形固定資産合計	7,846,383	7,903,281
無形固定資産	78,400	68,380
投資その他の資産		
投資有価証券	63,184	76,972
繰延税金資産	339,299	357,995
敷金及び保証金	1,082,075	1,075,194
その他	33,410	27,550
投資その他の資産合計	1,517,970	1,537,712
固定資産合計	9,442,754	9,509,374
資産合計	11,263,885	11,117,087

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	364,024	299,110
短期借入金	200,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	727,000	772,800
未払法人税等	68,713	73,247
賞与引当金	114,931	132,070
その他	1,729,321	1,472,008
流動負債合計	3,203,991	3,249,236
固定負債		
長期借入金	1,728,500	1,619,600
退職給付引当金	908,840	952,530
資産除去債務	158,794	160,330
その他	144,968	129,611
固定負債合計	2,941,102	2,862,071
負債合計	6,145,093	6,111,308
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,296,683	1,296,683
資本剰余金	2,135,783	2,135,783
利益剰余金	1,649,804	1,529,265
自己株式	△2,589	△2,593
株主資本合計	5,079,682	4,959,138
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,764	23,294
評価・換算差額等合計	15,764	23,294
新株予約権	23,345	23,345
純資産合計	5,118,791	5,005,778
負債純資産合計	11,263,885	11,117,087

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	6,541,055	6,764,262
売上原価	3,005,955	3,209,556
売上総利益	3,535,100	3,554,706
販売費及び一般管理費		
販売促進費	204,620	220,051
役員報酬	102,750	99,960
給料及び手当	1,136,859	1,228,713
賞与引当金繰入額	70,182	77,797
退職給付費用	30,539	31,752
福利厚生費	201,373	210,636
水道光熱費	112,672	123,152
消耗品費	108,517	111,116
修繕費	104,408	96,966
衛生費	119,868	121,719
租税公課	71,813	69,899
賃借料	370,762	404,929
減価償却費	176,508	201,982
その他	492,280	551,178
販売費及び一般管理費合計	3,303,156	3,549,854
営業利益	231,944	4,852
営業外収益		
受取利息	2,555	2,545
受取配当金	607	712
受取手数料	14,432	-
受取保険金	2,656	279
その他	2,776	1,021
営業外収益合計	23,029	4,559
営業外費用		
支払利息	15,564	15,007
その他	12,429	11,902
営業外費用合計	27,994	26,910
経常利益又は経常損失(△)	226,978	△17,498
特別利益		
固定資産売却益	-	35
特別利益合計	-	35
特別損失		
固定資産除却損	1,619	6,428
固定資産売却損	-	297
特別損失合計	1,619	6,725
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	225,359	△24,189
法人税、住民税及び事業税	78,600	23,976
法人税等調整額	△5,136	△21,852
法人税等合計	73,464	2,124
四半期純利益又は四半期純損失(△)	151,895	△26,314

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	225,359	△24,189
減価償却費	243,730	263,417
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	29,912	43,690
受取利息及び受取配当金	△3,162	△3,258
支払利息及び社債利息	15,564	15,007
固定資産除却損	1,619	6,428
売上債権の増減額 (△は増加)	35,848	21,916
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△33,966	△17,526
仕入債務の増減額 (△は減少)	△23,573	△64,914
未払消費税等の増減額 (△は減少)	10,732	33,878
その他	60,674	△12,166
小計	562,739	262,285
利息及び配当金の受取額	663	758
利息の支払額	△9,538	△9,135
保険金の受取額	3,116	279
法人税等の支払額	△135,749	△17,916
営業活動によるキャッシュ・フロー	421,231	236,272
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△117,601	△540,862
その他	△9,093	△65
投資活動によるキャッシュ・フロー	△126,695	△540,927
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	200,000	300,000
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△336,000	△363,100
自己株式の売却による収入	12,687	—
自己株式の取得による支出	208	△4
預り保証金の受入による収入	—	22,944
預り保証金の返還による支出	—	△27,838
配当金の支払額	△92,732	△93,878
その他	△29,584	△24,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	△245,421	114,017
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	49,114	△190,637
現金及び現金同等物の期首残高	318,604	585,088
現金及び現金同等物の四半期末残高	367,718	394,450

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

前第2四半期累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	事業本部	文化事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,928,705	612,350	6,541,055	—	6,541,055
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,928,705	612,350	6,541,055	—	6,541,055
セグメント利益	698,296	54,293	752,589	△520,645	231,944

(注)1. セグメント利益の調整額△520,645千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	事業本部	文化事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,173,953	590,309	6,764,262	—	6,764,262
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,173,953	590,309	6,764,262	—	6,764,262
セグメント利益	424,322	38,740	463,062	△458,210	4,852

(注)1. セグメント利益の調整額△458,210千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。